

第2章 薩摩川内市の現況

8. 公共交通

九州新幹線が川内駅に停車し、JR九州の在来線では鹿児島本線が鹿児島中央～川内間、第三セクターの肥薩おれんじ鉄道が八代～川内間にて運行しています。表 24 のとおり、利用者は増加の傾向にあります。バスは林田バス、南国交通及び市営甕島バスの他に地区の巡回バスがあります（表 25）。港湾は川内港があり、国際コンテナ船が韓国釜山との間を就航しています（表 26）。

表 24 鉄道の利用者数 (単位：人)

駅名		総数	西方	薩摩高城	草道	上川内	川内	隈之城	木場茶屋
H15	JR 九州	1,040,172	6,588	4,026	13,908	133,224	637,572	226,554	18,300
H16	JR 九州	1,114,824	－	－	－	－	932,738	171,114	10,972
	肥薩おれんじ	147,951	3,810	2,004	12,180	67,535	62,422	－	－
H17	JR 九州	1,164,860	－	－	－	－	997,126	115,785	11,955
	肥薩おれんじ	129,464	3,398	2,214	14,481	55,635	53,736	－	－

資料：JR 九州鹿児島・肥薩おれんじ鉄道

表 25 巡回バス利用状況 (単位：人)

年度	くるくるバス(川内)		ゆうゆうバス(樋脇)		乗合タクシー(入来)		ゆったりバス(東郷)		祁答院バス	
	利用人員	1 日平均	利用人員	1 日平均	利用人員	1 日平均	利用人員	1 日平均	利用人員	1 日平均
H15	106,077	291	21,220	72	6,279	21	11,863	40	12,753	43
H16	107,494	294	18,379	62	6,877	23	15,119	51	10,709	36
H17	104,847	287	20,363	69	6,815	23	16,711	56	12,567	43

資料：商工振興課

表 26 川内港船種別入港船舶

年度	総数		外航商船		内航商船		漁船		その他	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
H15	3,092	1,375,766	82	998,188	654	354,262	2,356	23,316	－	－
H16	3,674	1,596,761	78	1,191,260	726	376,317	2,870	29,184	－	－
H17	3,814	1,381,146	89	985,248	703	364,404	3,022	31,494	－	－

資料：鹿児島県統計年鑑

9. 文化財

本市は、表 27 に示す国指定 14 件、県指定 11 件、市指定 148 件の文化財と、国選定 1 件、登録有形文化財 2 件、無形民俗文化財 2 件があります。

表 27 国県市別文化財指定数

国指定	県指定	市指定	計	国選定	登録有形文化財	無形民俗文化財 (国選択)	合計
14	11	148	173	1	2	2	178

* 登録有形文化財及び(国選択)無形民俗文化財は指定数に含まれない 資料：文化課

10. 下水道整備状況

生活排水処理率は、表 28 のとおり平成 17 年で 40%と年々上昇しています。

表 28 生活排水処理率

年度	生活排水 処理率 (%)	人口計 (人)	生活排水 処理人口 合計(人)	下水道	コミュニティ・ プラント	合併処理 浄化槽	農業・漁業 集落排水
H15	34.6	104,547	36,198	561	1,178	32,842	1,617
H16	37.4	103,862	38,794	1,197	1,148	34,380	2,069
H17	40.0	103,015	41,251	1,545	1,144	36,115	2,447

資料：環境課

第4節 生産環境

1. 農業人口

農業就業人口は、表 29 のとおり平成 12 年の 5,623 人から、平成 17 年では 4,574 人に減少しました。また、平成 17 年の農家戸数は 2,903 戸で、専業農家が 1,118 戸、第 1 種兼業農家は 312 戸、第 2 種兼業農家が 1,473 戸となっています。

年齢別農業就業人口は、表 30 のとおり 60 歳以上が多く、高齢化が進んでいます。

表 29 農業就業人口

年度	市町村 人口	農業就業人口(人)			農業就 業者比 率(%)	販売農家(戸)					自給の 農家	総農家
		男	女	計		専業	兼業			計		
							第1種	第2種	計			
H12	105,464	－	－	5,623	5.3	1,159	431	2,232	2,663	3,822	2,729	6,551
H17	102,370	2,237	2,337	4,574	4.5	1,118	312	1,473	1,785	2,903	3,021	5,924

資料：2005 年農林業センサス

表 30 年齢別農業就業者数

男女計	男(人)				女(人)			
	計	15～29 歳	30～59 歳	60 歳以上	計	15～29 歳	30～59 歳	60 歳以上
4,574	2,237	170	298	1,769	2,337	108	378	1,851

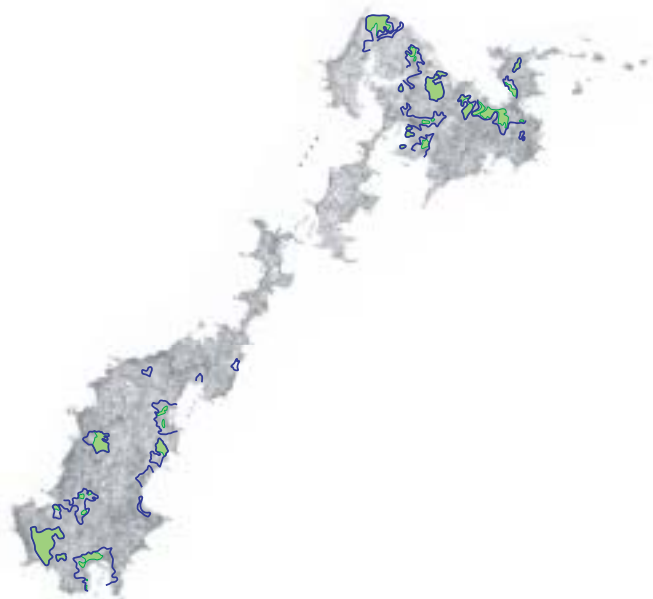
資料：2005 年農林業センサス

2. 農 地

薩摩川内市農業振興地域整備計画（平成 18 年 2 月策定）によると、市全体の面積 68,350ha のうち 58.2%の 39,784ha が農業振興地域に指定され、そのうち農用地が 16.9%の 6,720ha です。また、4,789ha が農用地区域に指定され、そのうち農用地が 4,537ha です。

農林水産省「平成 17 年度（産）作物統計調査」によると、耕地面積全体は 5,439ha で、うち田が 3,750ha、普通畑 1,060ha、樹園地 350ha、牧草地 279ha です。

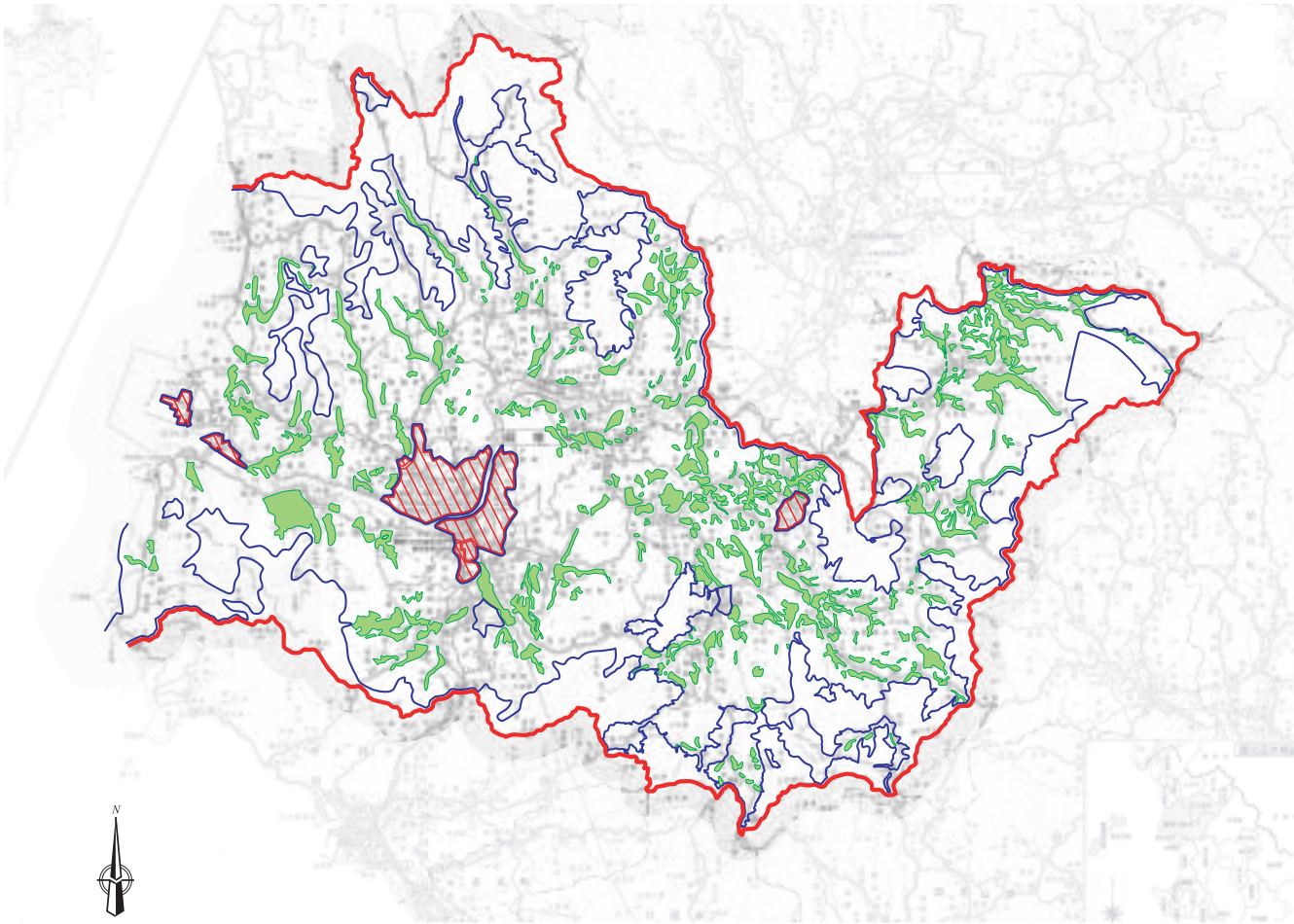
第2章 薩摩川内市の現況



凡 例	
	農業振興地域
	農用地区域
	用途地域
	市界

参照：鹿児島県川薩耕地事務所管内図 1:100,000 平成17年6月 鹿児島県川薩耕地事務所

資料：薩摩川内市管内図(2/2) 附図1号土地利用計画図
薩摩川内市(甕列島部)1:50,000
薩摩川内市農業農村整備事業管理計画図 1:25,000
農業農村整備事業管理計画図(東郷支所) 1:25,000
入来町農業農村整備事業管理計画図 1:25,000
祁答院町管内図 1:25,000



参照：鹿児島県川薩耕地事務所管内図 1:100,000 平成17年6月 鹿児島県川薩耕地事務所
薩摩川内市都市計画マスタープラン

▲ 農業振興地域・農用地位置図

3. 作付主要作物

作付主要作物の面積は、表 31 のとおり、水稻 2,420ha、飼料作物 989ha、茶 131ha、みかん 106ha の順です。また、農業粗生産額合計は 1,121 千万円で、主な内訳は畜産 625 千万円（ブロイラー、肉用牛、豚など）、米 250 千万円、野菜 121 千万円、果実（イチゴ、みかん、きんかん、ぶどうなど）63 千万円、茶・たばこ 27 千万円となっています。

表 31 主要作物別作付面積と粗生産額

主要作物別作付面積(ha)						主要な農業粗生産額(千万円)					
主要作物	水稻	飼料作物	茶	みかん	甘藷	農産物	鶏	米	肉用牛	野菜	果実
作付面積	2,420	989	131	106	45	粗生産額	286	250	249	121	63

資料：平成 17 年(産) 作物統計調査、平成 17 年生産農業所得統計（農林水産省）

4. 経営耕地及び耕作放棄の面積

本市には、総農家では経営耕地面積 3,295ha に対し、約 665ha の耕作放棄地があります。また、土地持ち非農家では約 711ha の耕作放棄地があります。

表 32 経営耕地面積及び耕作放棄地面積

計			自給的農家			販売農家			耕作放棄 面積(ha)
農家数 (戸)	経営耕地 面積(ha)	耕作放棄 面積(ha)	農家数 (戸)	経営耕地 面積(ha)	耕作放棄 面積(ha)	農家数 (戸)	経営耕地 面積(ha)	耕作放棄 面積(ha)	
5,930	3,295	665	3,027	569	358	2,903	2,726	306	711

資料：2005 年農林業センサス

5. 生産基盤整備

平成 17 年度のほ場整備率は、要ほ場整備面積に対して水田が 79.9%、畑が 79%で整備率が高くなっています（農業農村整備事業における市町村別整備水準調査結果）。

水田は、川内川の両岸に開けた平坦地水田と川内川支流沿いの水田が主です。一部には区画が狭く、農業用機械の使用が困難な地域もあり、今後も生産性の向上や水田の汎用化などの整備を行います。

6. 重点地区

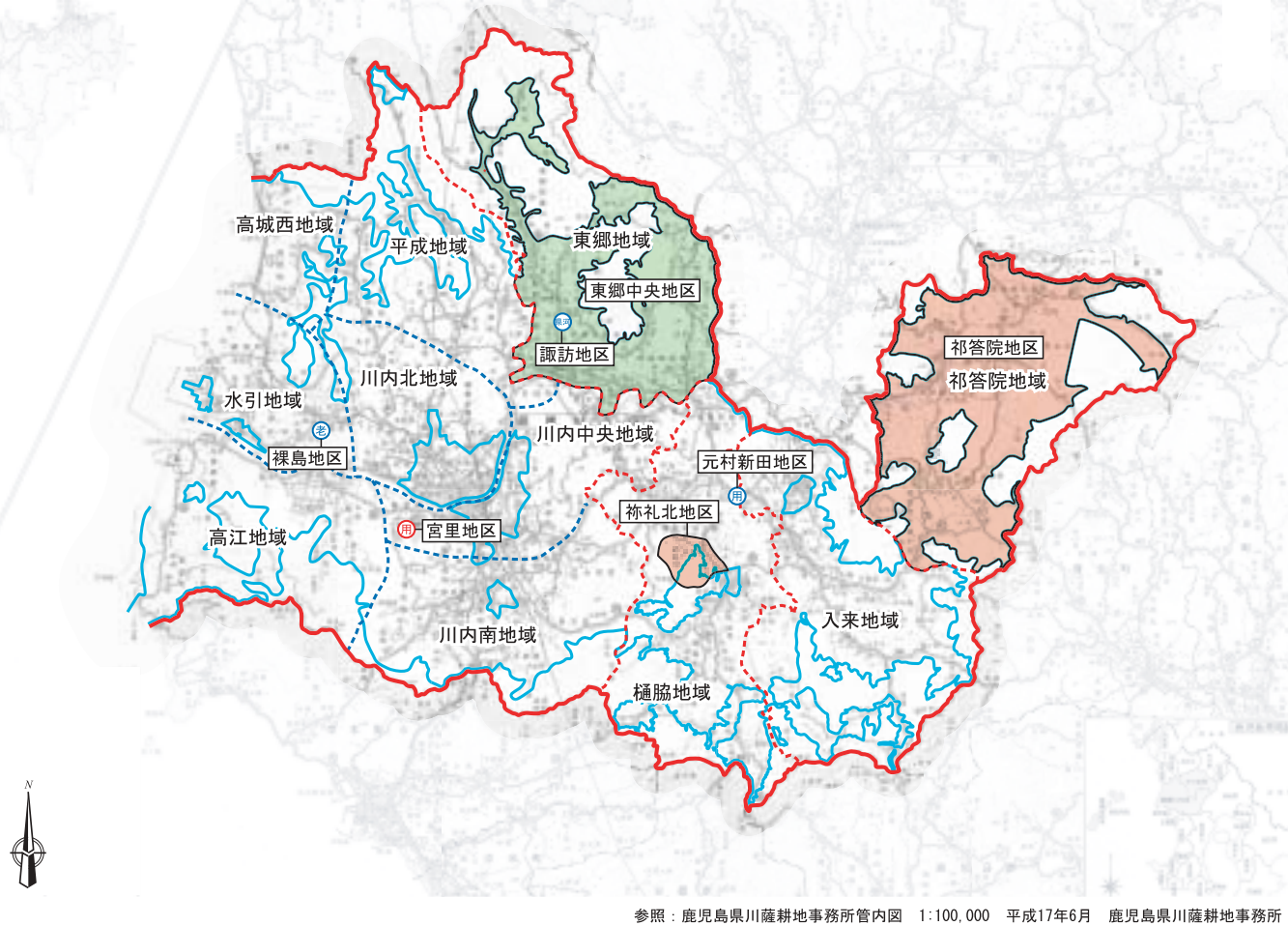
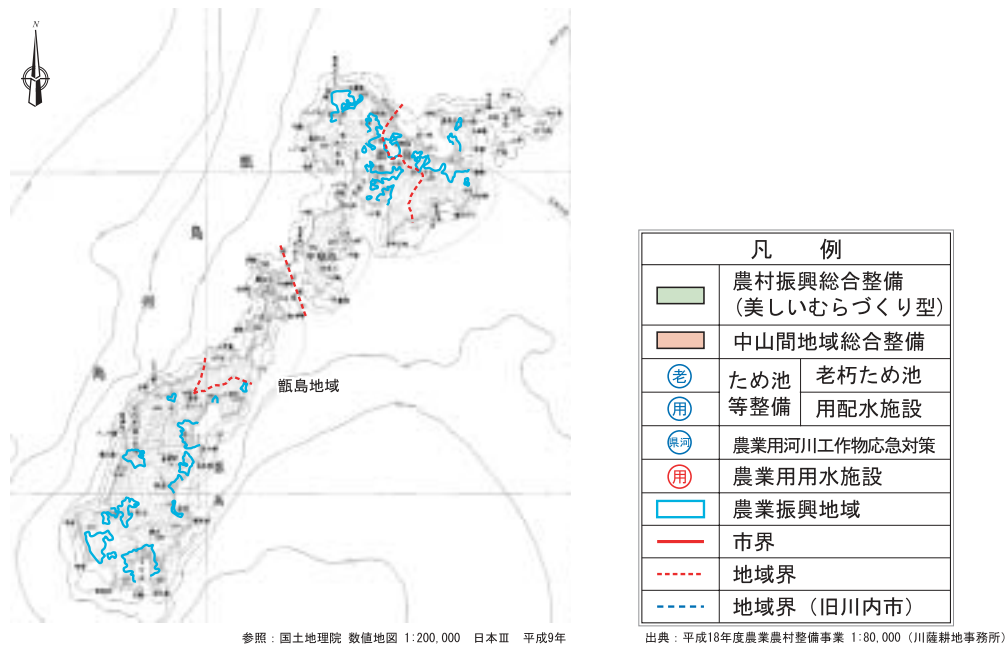
広域農道（川薩グリーンロード）は平成 19 年度で全線開通しました。県営中山間地域総合整備事業では祢礼北地区 28.9ha（樋脇）のほ場整備を行い、県営農村振興総合整備事業では、東郷中央地区（東郷）の集落道路及び用排水などの整備を進めています。

農地など保全管理事業では、ため池等整備事業の元村新田地区（樋脇）の用排水施設の整備が平成 20 年度完成を目指し、農業用河川工作物応急対策事業では諏訪地区（東郷）で事業を進めています。

高城川下流の川江地区（川内）は、塩水遡上による塩害の発生や、時間取水など耕作に支障が生じています。平成 15 年から水質保全対策事業にて川江堰改修を行っています。

第2章 薩摩川内市の現況

今後は、県営ため池等整備事業で裸島地区（川内）と県営湛水防除事業で隈之城地区（川内）及び県営中山間地域総合整備事業で祁答院地区（祁答院）を予定しています。



▲ 農業農村整備事業位置図